



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
電話 03-5315-0941

2022年1月1日

発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子

第731号

毎月1回20日発行/一部20円
(組合員の購読料は、組合費に含む)



JR東労組ホームページは
←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>



闘春



JR東労組結成35年・浦和電車区事件から20年 『抵抗とヒューマンリズムの精神』でこれからたたかい抜こう！

JR東労組 中央執行委員長 佐藤 英樹

JR東労組組合員・ご家族・OB会の皆さま、明けましておめでとうございます。2022年は、「JR東労組結成35年」を迎えます。これまでJR東労組と共に歩んでくださった全ての皆さまに感謝と御礼を申し上げます。そして「えん罪・JR浦和電車区事件」から20年が経過する大きな節目の年です。美世志会と共に弾圧の狙いを打ち砕き、たたかいの過程で拓がった連帯の輪と組織の強化を実現した教訓を捉え返し、これからも「抵抗とヒューマンリズムの精神」を基軸にたたかって参ります。

昨年は、21春闘や期末手当要求実現に向けたたたかいの過程で大変悔しい思いをいたしました。それは日々、組合員・社員がJR東日本の安全・安定輸送や様々な部門で奮闘や努力を積み重ねていることや、収入が大幅に減少している中で訴えた悲痛な現実に対して、会社の回答はあまりにもかけ離れていたからです。新型コロナウイルス感染症の拡大と、その中で組合員の雇用と生活と利益を守る労働組合の必要性や存在意義、たたかう姿勢が問われた一年でした。「赤字・コロナ禍だから仕方がない」という「諦め感」などがJR東日本全体に蔓延し、私たちも大きく影響を受けました。このままでは、私たちの「諦め感」を利用して更に労働条件を切り下げられます。だからこそ、私たちは職場から声を上げなければなりません。そして、重要なことは、JR東労組が掲げる運動方針を組合員一人ひとりが「自分自身のものにしたたたかう」ということです。これ以上、私たちの労働条件を切り下げることには許されません。組合員・家族の生活を守

るためにも連帯を強化し、JR東労組中央本部は全ての仲間と要求実現に向けた運動をさらに強固なものとしていきます。

「変革2027」における「現業機関における柔軟な働き方の実現」施策は、職名の廃止にとどまらず、JR東日本全体の組織再編(本社・支社・職場の再編)にまで及びます。職場体制や組織体制の変更に効率的な業務になるはずが、一人ひとりの負担が更に増し、労働環境や生活環境が悪化することがあってはなりません。

現在もJR東労組組合員は、仲間を想い、施策や時にはハラスメントなどにも立ち向かいながら日々奮闘しています。私たちは、現在の組織実態を踏まえ、組織拡大を目指しています。あるべき論ではなく、常に職場の苦勞や現実を学び、どのようにしたらJR東労組の組織強化・拡大を実現することができるのか、建設的な意見や議論を積み上げていくことが重要です。常に自分の考えを発信するのは勇気が要ることですが、仲間の意見を受け止めながら、今後のJR東労組の方向性を一致していくために、仲間と多くの議論をしていきましょう。そして、共にたたかいをつくり出していきます。

いま私たちが成すべきことは、組織力と団結力を高めることです。社友会・離脱者・未加入者・他労組に「共にJR東労組でたたかう」と呼びかけ、JR東労組の組織強化・拡大を実現しようではありませんか。本年もどうぞよろしくお願い致します。



「定期昇給の完全実施」「ベア要求」「総合労働条件改善」を掲げ、 「統一要求・統一闘争」というJR総連春闘の陣形を強化しよう！

JR総連 執行委員長 山口 浩治

明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症が減少傾向にあり、徐々に人流が戻りつつありますが、JR東日本は通期決算の見通しを下方修正しており、私たちを取り巻く情勢は厳しいことに変わりはありません。

21春闘でJR東日本は「定期昇給を実施し、その際の昇給係数を2とする」と回答しました。これにより組合員の将来設計に大きな影響を与えたことには言ってもありません。さらにJR総連加盟各単組にも今後の危機感として位置づけられました。JR総連は、22春闘で組合員の生活実態、労働実態に基づき、「定期昇給の完全実施」「ベア要求」「総合労働条件改善」を掲げ、「統一要求・統一闘争」というJR総連春闘の陣形を強化し、すべての組合員と共にとたたかいます。「JR総連春闘」のたたかいは職場の隅々まで浸透させていたたくよう、JR東労組の皆さまの奮闘をお願いします。

「働き方改革」に対する取り組みでは、「業務の融合」とともに「組織再編」や「要員管理の見直し」の議論が開始されています。「業務の融合」については、少子高齢化に直面するJRグループすべての要員問題と関連していきます。JR総連は、JR東労組のたたかいと歩調を合わせて、加盟各単組との議論を深めていきます。

連合の22春闘方針では、「豊かな生活時間とあるべき労働時間の確保」として「年間総労働時間1800時間」の実現をめざしています。JR東日本の総労働時間は、加重平均で1866時間です。乗務員のみ1798時間50分ですが、業務の融合による総労働時間の増加に歯止めをかけていかなければなりません。「業務量に応じたフレキシブルな要員措置」は組合員の労働強化につながるよう「安全・健康・ゆとり」の実現のためにたたかきましょう。

一方、経団連は「裁量労働制の対象拡大等、自律的・主体的な働き方に適した新しい労働時間制度の実現を目指す」と主張しており、政府における「法制化」の動きを注視していかなくてはなりません。

第49回衆議院選挙では、「JR総連推薦議員懇談会」のメンバーを13名拡大することができました。各単組の課題を国政の場で解決していくために連帯を強化していきます。合わせて今年夏の参議院選挙にむけてたたかいを強めていきます。

憲法改正の動きが加速しています。「9条連」の仲間と共に憲法を守るたたかいを強化していきます。

JR総連は今年一年も「組織拡大・強化」を軸に「平和・人権・民主主義」を守るたたかいを強化します。共にたたかう！